



ものづくりに触れる環境

京都は工学系のものづくりが盛んで、小さなころからものづくりに触れる機会が多くありました。小学生の時、授業の課外活動でスピーカーに音楽を流す回路を作る企画に参加しました。手を動かしてみて、「動作原理など理論的なことを理解できればもっといろんなものが自分の手で作れるのではないか」という好奇心が湧きました。そのことがきっかけで電気電子の分野に興味を持つようになりました。

技術を身に付けて将来に活かしたい

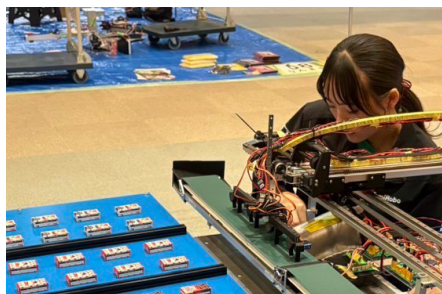
高校時代、技術者の需要が高まり続けている現状を知りました。電子やロボットの仕組みに触れることが純粋に面白そうだと感じたことに加え、将来の強みにもなると考え、工学分野に進みたいと思うようになりました。「国立大学であること」、「他学部の授業を履修できること」を条件に大学を選びました。担任の先生の勧めもあり、富山大学を受験することになりました。工学部の5コースの中で、やってみたいことと目指したい将来の姿に一番合っていると感じた電気電子工学コースに進学しました。

将来を見据えて海外との交流も

もともと海外の人との交流に興味があり、将来仕事でも関わりたいという思いがありました。1年次の夏休みは、富山大学の留学プログラムである「短期海外語学研修」でマレーシアへ2週間行きました。春休みはイギリスへ文化紹介インターンシップに2週間参加しました。特に1年次のマレーシア留学では現地の学生サポーターの方にとってもお世話になりました。恩返しする形で、マレーシアからの留学生をサポートする機会に富山大学の国際サポーターとして参加しています。多くの国籍の人と関わる中で、相手の文化を理解したうえで最適な伝え方を選ぶという姿勢を身に付けてきました。英語を使うことで技術者としての引き出しも増え、将来の可能性も広がると感じています。

ロボット制作に夢中

学んだことをカタチにしたい思いから、2年次からロボコンに参加しました。最近では、回路担当として「キャチロボバトルコンテスト」という「機械は人間の手を超えられるか」というコンセプトの大会に挑戦しました。もう一人のチームメイトと技術の習得や問題解決力の向上を目標に掲げ、試行錯誤しています。新しい技術に挑戦することを通して、知識が実際の動作につながる瞬間の面白さと、ロボットが「動く」までには無数の技術が繋がっているという奥深さを学んでいます。そのほかに、創造工学特別実習という学年やコース分け隔てなく参加できる授業に1年次から参加しています。今年は回路担当として犬ロボットのような四足歩行ロボットの制作に参加しました。現在はロボティクス分野の研究室に仮配属として関わり始めています。4年次から始まる本格的な研究に向けて、扱う機器や開発環境に慣れながら、自分の専門性をどう高めていくか模索しています。



お世話になった高校の先生へ

物理や化学の楽しさを教えてくださり、学び方や時間管理まで丁寧に導いてくださった先生の姿勢が、私の頑張る原動力になりました。その経験を支えに、これからの進路や生き方にも誠実に挑み続けたいと思っています。